

# 平和の灯

題字 津留崎 恂  
戦没者を慰霊し 平和を守る会発行  
〒830-0044 福岡県久留米市本町3-6  
塩川総合企画(株)内  
発行責任者 塩川正隆  
電話 0942-38-4389  
FAX 31-5790  
e-mail: shio-co@kurume.ktarn.or.jp

## 異国の山野・海で帰還を待つ百万体を超える戦没者

### DNA鑑定で遺族の元へ

戦後五十六年が経過した今日でも、海外における戦没者の未帰還遺骨は百万体を超え、遠い異国の海や山野で長い間故郷への帰還を待ち望んでいる。

戦後五十六年が経過した今日でも、海外における戦没者の未帰還遺骨は百万体を超え、遠い異国の海や山野で長い間故郷への帰還を待ち望んでいる。

召集令状一つで、国の犠牲になった戦没者に対する責任で、遺族の元へ帰す義務があるはずだ。戦没者の遺骨を遺族の元へ帰すには、戦没者遺族と遺骨のDNA鑑定による照合が必要だが、遺族(兄弟など)が高齢化していることもあり、早急に着手する必要がある。それが、小泉首相の言う「戦没者に感謝と敬意を示す」最低限の事だと考える。

### 地域別戦没者概数及び帰還遺骨数 (平成13年1月1日現在厚生労働省調べ)

地域	戦没者概数	帰還遺骨概数	残存遺骨概数	遺骨収集実施回数	慰霊巡拝実施回数
旧ソ連・モンゴル含む	54,400	13,460	40,940	93	65
中国北地区 旧満州	245,400	39,050	206,350	3	19
中国本土	465,700	438,470	27,230	2	0
アッツ島 アリウシャン列島	24,400	1,680	22,720	11	9
インド	30,000	19,940	10,060	4	8
ミャンマー	137,000	91,360	45,640	11	9
マレーシア・タイ	21,000	20,200	800	7	0
インドネシア・スマトラ	31,400	11,020	20,380	5	7
西ニューギニア	53,000	31,920	21,080	4	4
東ニューギニア・ソロモン	118,700	55,480	63,220	24	12
ベトナム	12,000	6,910	5,090	4	8
フィリピン・台湾	518,000	132,730	385,270	29	17
トラック・ルソン	127,600	49,160	78,440	15	11
マリアナ諸島サイパン・グアム	247,000	72,240	174,760	50	31
沖縄	186,500	185,250	1,250	55	4
硫黄島	20,100	8,240	11,860	43	6
その他の地域	107,800	58,790	49,010	7	4
合計	2,400,000	1,235,900	1,164,100		

## 真の戦没者慰霊を求め 『戦没者を慰霊し平和を守る会』設立

新年あけましておめでとうございます。 昨年は戦後五十六年が過ぎ、二十一世紀を迎え、慰霊巡拝事業は、世紀をまたいで行なわれることになった。 これまで、国や多くの戦友、遺族によって、戦没者の慰霊巡拝事業は行なわれてきた。しかし、帰還した遺骨や遺品は少なく、その多くが異国の山野や海に眠り、一日も早い帰還を望んでいるが、経年と共にその収集作業は困難になっている。 また、その中心的役割を果たしてきた、戦友の年令も八十歳を越え、現地に赴く事さえ困難な状況になってきた。

この事業をどのように継続して行くか、慰霊巡拝事業は正にこれからが正念場である。 当会は、このような厳しい状況の中で、戦没者の戦友や遺児・孫など三世代を中心に、この運動を末長く継続して行くために九州の小さな町で発足した。 昨年、小泉首相は靖国神社参拝時に「戦没者に感謝と敬意を表する」と言われたが、ならば国は現状で良いのか、私共は現地に赴き戦地の実態を多くの国民に訴え、平和な日本の原点であった戦争風化させることのないように、そして、肉親との絆を引き裂いた、あの忌まわしい戦争を子や孫に味あわせないように、戦没者を慰霊し平和を守るために、自らも行動する団体としたい。 多くの方々が入会されることを願っている。

### 全国統一組織をめざして

また、現在日本国内には、当会で連絡を取り合っているだけでも、戦没者慰霊巡拝のボランティアア団体が約三十団体ほどある。戦争感も違う、思想・信条も異なるが、慰霊巡拝にかける思いは共通するはずである。全国の団体に呼びかけ、統一組織の設立を目指したい。

## 生かされて

昭和十九年十一月、比島ミンダナオ島オモナイにて、歩兵第七十七連隊

中天高く輝いていた。私は「この月を来年無事に見ることが出来るかなア」と部下言った。部下は夫々の思いを抱きながら、月を仰いでいた。決戦場へ向う兵の顔は皆、引き緊っていた。月は無心にこの顔を照らしていた。

十九年五月九日、出陣のため整列した三千有余名の部下の前で、新郷連隊長は訓示のあと「皆さん、これが最後の見納めだぞ、よくこの兵舎を見て置け」と言われた。兵舎は黒く物言わず、その屋根の向うに蒼光山の山端がくっきりと見えた

戦後、夫人と再会したのは山口県菊川町、願王寺で毎年行われる連隊の慰霊祭の日であった。レイテ唯一の生存者、永田勝美氏(併号呂邨)と戦地に於ける中隊長のことを詳しくお話しした。夫人は溢れる涙の中「紙きれ一枚の公報だけでは、とても主人の死を覚悟する

征くもなし 還るもならず 兵枯るる 呂邨

平成十三年十二月八日、愛子内親王が誕生された。雅子妃の出身地村上市民は殊のほか慶祝で賑わっていた。私は市民の顔の中に現役兵のニコニコと笑っている顔が重なって見えた。もしも生きて還っていたら、市民の十倍も二十倍も慶んだことだろう。涙がとめども

私には第二次世界大戦で父親と叔父を沖縄とフィリピン・レイテ島で亡くした。肉親の消息を知りたいと、戦友の方々を探し当て、一九七七年より沖縄で遺骨収集や慰霊巡拝を行なっている。当時の沖縄は、ひめゆりの塔や、海軍壕、黎明の塔などは観光地化し、訪れる人も多く、戦争は終わったかの状況であった。しかし、一歩山野や洞窟に足を踏み入れると遺骨や遺品、銃弾が散らばり、戦場さながらであり、驚きと憤りを感じた。これでは戦没者が浮かばれぬと思い、遺骨収集が始まった。もう二十五年が過ぎた。

十年前から叔父の戦死地であるフィリピン・レイテ島でも慰霊巡拝を始めた。レイテ島は戦友の方々により建立された慰霊碑は老朽化し、山野には多くの遺骨が眠る。訪れるたびに現地の人より、遺骨や遺留品を預かる。肉親や国のために若くして、犠牲になった戦没者のために、遺族の努めとして何とかご返返しをしなければと思う。

▼昨年、政府の遺骨収集団の団長、寺嶋氏の自宅を訪ねた。寺嶋氏が言われるには、遺骨収集に行き、最も熱心に行なうのは戦友で、その次が遺児だそう。その戦友の方々の殆どが八十歳を越える。これからは、私たちの遺児の仕事だ。そうしないと、戦争は風化し、肉親の死は無駄になり、平和な日本でなくなる。

一息吸う 生きていてよかった 一息吐く 生かされてよかった 南無

世界慰霊平和公園の碑 祈誓の碑

ここは、かつて日米両軍激戦の地にして、多くの兵の戦死の地なり。この悲劇の地に、米・比・日の戦没者の霊安かたを祈る。 新世紀に当りこの地に慰霊平和公園を建設し戦後兵士の霊を祈念する所以で在る。過去の悲劇を繰り返さぬ事を誓い、戦争の愚を断つ事を祈る。ここに、世界平和慰霊公園たることを祈誓する。 二〇〇一年七月一日 世界平和慰霊公園建設委員会委員 永田 勝美、坂木茂太郎、西土 純一 津留崎 恂、川副 正敏、塩川 正隆

レイテ島カンギポット山に建立された慰霊碑 前方の山がカンギポット山

レイテ島ピリヤバの日比合同慰霊祭で

昭和十九年十一月、比島ミンダナオ島オモナイにて、歩兵第七十七連隊

中天高く輝いていた。私は「この月を来年無事に見ることが出来るかなア」と部下言った。部下は夫々の思いを抱きながら、月を仰いでいた。決戦場へ向う兵の顔は皆、引き緊っていた。月は無心にこの顔を照らしていた。

十九年五月九日、出陣のため整列した三千有余名の部下の前で、新郷連隊長は訓示のあと「皆さん、これが最後の見納めだぞ、よくこの兵舎を見て置け」と言われた。兵舎は黒く物言わず、その屋根の向うに蒼光山の山端がくっきりと見えた

戦後、夫人と再会したのは山口県菊川町、願王寺で毎年行われる連隊の慰霊祭の日であった。レイテ唯一の生存者、永田勝美氏(併号呂邨)と戦地に於ける中隊長のことを詳しくお話しした。夫人は溢れる涙の中「紙きれ一枚の公報だけでは、とても主人の死を覚悟する

征くもなし 還るもならず 兵枯るる 呂邨

平成十三年十二月八日、愛子内親王が誕生された。雅子妃の出身地村上市民は殊のほか慶祝で賑わっていた。私は市民の顔の中に現役兵のニコニコと笑っている顔が重なって見えた。もしも生きて還っていたら、市民の十倍も二十倍も慶んだことだろう。涙がとめども

私には第二次世界大戦で父親と叔父を沖縄とフィリピン・レイテ島で亡くした。肉親の消息を知りたいと、戦友の方々を探し当て、一九七七年より沖縄で遺骨収集や慰霊巡拝を行なっている。当時の沖縄は、ひめゆりの塔や、海軍壕、黎明の塔などは観光地化し、訪れる人も多く、戦争は終わったかの状況であった。しかし、一歩山野や洞窟に足を踏み入れると遺骨や遺品、銃弾が散らばり、戦場さながらであり、驚きと憤りを感じた。これでは戦没者が浮かばれぬと思い、遺骨収集が始まった。もう二十五年が過ぎた。

十年前から叔父の戦死地であるフィリピン・レイテ島でも慰霊巡拝を始めた。レイテ島は戦友の方々により建立された慰霊碑は老朽化し、山野には多くの遺骨が眠る。訪れるたびに現地の人より、遺骨や遺留品を預かる。肉親や国のために若くして、犠牲になった戦没者のために、遺族の努めとして何とかご返返しをしなければと思う。

▼昨年、政府の遺骨収集団の団長、寺嶋氏の自宅を訪ねた。寺嶋氏が言われるには、遺骨収集に行き、最も熱心に行なうのは戦友で、その次が遺児だそう。その戦友の方々の殆どが八十歳を越える。これからは、私たちの遺児の仕事だ。そうしないと、戦争は風化し、肉親の死は無駄になり、平和な日本でなくなる。

一息吸う 生きていてよかった 一息吐く 生かされてよかった 南無

世界慰霊平和公園の碑 祈誓の碑

ここは、かつて日米両軍激戦の地にして、多くの兵の戦死の地なり。この悲劇の地に、米・比・日の戦没者の霊安かたを祈る。 新世紀に当りこの地に慰霊平和公園を建設し戦後兵士の霊を祈念する所以で在る。過去の悲劇を繰り返さぬ事を誓い、戦争の愚を断つ事を祈る。ここに、世界平和慰霊公園たることを祈誓する。 二〇〇一年七月一日 世界平和慰霊公園建設委員会委員 永田 勝美、坂木茂太郎、西土 純一 津留崎 恂、川副 正敏、塩川 正隆

レイテ島カンギポット山に建立された慰霊碑 前方の山がカンギポット山

レイテ島ピリヤバの日比合同慰霊祭で

昭和十九年十一月、比島ミンダナオ島オモナイにて、歩兵第七十七連隊

中天高く輝いていた。私は「この月を来年無事に見ることが出来るかなア」と部下言った。部下は夫々の思いを抱きながら、月を仰いでいた。決戦場へ向う兵の顔は皆、引き緊っていた。月は無心にこの顔を照らしていた。

十九年五月九日、出陣のため整列した三千有余名の部下の前で、新郷連隊長は訓示のあと「皆さん、これが最後の見納めだぞ、よくこの兵舎を見て置け」と言われた。兵舎は黒く物言わず、その屋根の向うに蒼光山の山端がくっきりと見えた

戦後、夫人と再会したのは山口県菊川町、願王寺で毎年行われる連隊の慰霊祭の日であった。レイテ唯一の生存者、永田勝美氏(併号呂邨)と戦地に於ける中隊長のことを詳しくお話しした。夫人は溢れる涙の中「紙きれ一枚の公報だけでは、とても主人の死を覚悟する

征くもなし 還るもならず 兵枯るる 呂邨

平成十三年十二月八日、愛子内親王が誕生された。雅子妃の出身地村上市民は殊のほか慶祝で賑わっていた。私は市民の顔の中に現役兵のニコニコと笑っている顔が重なって見えた。もしも生きて還っていたら、市民の十倍も二十倍も慶んだことだろう。涙がとめども

私には第二次世界大戦で父親と叔父を沖縄とフィリピン・レイテ島で亡くした。肉親の消息を知りたいと、戦友の方々を探し当て、一九七七年より沖縄で遺骨収集や慰霊巡拝を行なっている。当時の沖縄は、ひめゆりの塔や、海軍壕、黎明の塔などは観光地化し、訪れる人も多く、戦争は終わったかの状況であった。しかし、一歩山野や洞窟に足を踏み入れると遺骨や遺品、銃弾が散らばり、戦場さながらであり、驚きと憤りを感じた。これでは戦没者が浮かばれぬと思い、遺骨収集が始まった。もう二十五年が過ぎた。

十年前から叔父の戦死地であるフィリピン・レイテ島でも慰霊巡拝を始めた。レイテ島は戦友の方々により建立された慰霊碑は老朽化し、山野には多くの遺骨が眠る。訪れるたびに現地の人より、遺骨や遺留品を預かる。肉親や国のために若くして、犠牲になった戦没者のために、遺族の努めとして何とかご返返しをしなければと思う。

▼昨年、政府の遺骨収集団の団長、寺嶋氏の自宅を訪ねた。寺嶋氏が言われるには、遺骨収集に行き、最も熱心に行なうのは戦友で、その次が遺児だそう。その戦友の方々の殆どが八十歳を越える。これからは、私たちの遺児の仕事だ。そうしないと、戦争は風化し、肉親の死は無駄になり、平和な日本でなくなる。

一息吸う 生きていてよかった 一息吐く 生かされてよかった 南無

世界慰霊平和公園の碑 祈誓の碑

ここは、かつて日米両軍激戦の地にして、多くの兵の戦死の地なり。この悲劇の地に、米・比・日の戦没者の霊安かたを祈る。 新世紀に当りこの地に慰霊平和公園を建設し戦後兵士の霊を祈念する所以で在る。過去の悲劇を繰り返さぬ事を誓い、戦争の愚を断つ事を祈る。ここに、世界平和慰霊公園たることを祈誓する。 二〇〇一年七月一日 世界平和慰霊公園建設委員会委員 永田 勝美、坂木茂太郎、西土 純一 津留崎 恂、川副 正敏、塩川 正隆

レイテ島カンギポット山に建立された慰霊碑 前方の山がカンギポット山

レイテ島ピリヤバの日比合同慰霊祭で

昭和十九年十一月、比島ミンダナオ島オモナイにて、歩兵第七十七連隊

中天高く輝いていた。私は「この月を来年無事に見ることが出来るかなア」と部下言った。部下は夫々の思いを抱きながら、月を仰いでいた。決戦場へ向う兵の顔は皆、引き緊っていた。月は無心にこの顔を照らしていた。

十九年五月九日、出陣のため整列した三千有余名の部下の前で、新郷連隊長は訓示のあと「皆さん、これが最後の見納めだぞ、よくこの兵舎を見て置け」と言われた。兵舎は黒く物言わず、その屋根の向うに蒼光山の山端がくっきりと見えた

戦後、夫人と再会したのは山口県菊川町、願王寺で毎年行われる連隊の慰霊祭の日であった。レイテ唯一の生存者、永田勝美氏(併号呂邨)と戦地に於ける中隊長のことを詳しくお話しした。夫人は溢れる涙の中「紙きれ一枚の公報だけでは、とても主人の死を覚悟する

征くもなし 還るもならず 兵枯るる 呂邨

平成十三年十二月八日、愛子内親王が誕生された。雅子妃の出身地村上市民は殊のほか慶祝で賑わっていた。私は市民の顔の中に現役兵のニコニコと笑っている顔が重なって見えた。もしも生きて還っていたら、市民の十倍も二十倍も慶んだことだろう。涙がとめども

私には第二次世界大戦で父親と叔父を沖縄とフィリピン・レイテ島で亡くした。肉親の消息を知りたいと、戦友の方々を探し当て、一九七七年より沖縄で遺骨収集や慰霊巡拝を行なっている。当時の沖縄は、ひめゆりの塔や、海軍壕、黎明の塔などは観光地化し、訪れる人も多く、戦争は終わったかの状況であった。しかし、一歩山野や洞窟に足を踏み入れると遺骨や遺品、銃弾が散らばり、戦場さながらであり、驚きと憤りを感じた。これでは戦没者が浮かばれぬと思い、遺骨収集が始まった。もう二十五年が過ぎた。

十年前から叔父の戦死地であるフィリピン・レイテ島でも慰霊巡拝を始めた。レイテ島は戦友の方々により建立された慰霊碑は老朽化し、山野には多くの遺骨が眠る。訪れるたびに現地の人より、遺骨や遺留品を預かる。肉親や国のために若くして、犠牲になった戦没者のために、遺族の努めとして何とかご返返しをしなければと思う。

▼昨年、政府の遺骨収集団の団長、寺嶋氏の自宅を訪ねた。寺嶋氏が言われるには、遺骨収集に行き、最も熱心に行なうのは戦友で、その次が遺児だそう。その戦友の方々の殆どが八十歳を越える。これからは、私たちの遺児の仕事だ。そうしないと、戦争は風化し、肉親の死は無駄になり、平和な日本でなくなる。

一息吸う 生きていてよかった 一息吐く 生かされてよかった 南無

世界慰霊平和公園の碑 祈誓の碑

ここは、かつて日米両軍激戦の地にして、多くの兵の戦死の地なり。この悲劇の地に、米・比・日の戦没者の霊安かたを祈る。 新世紀に当りこの地に慰霊平和公園を建設し戦後兵士の霊を祈念する所以で在る。過去の悲劇を繰り返さぬ事を誓い、戦争の愚を断つ事を祈る。ここに、世界平和慰霊公園たることを祈誓する。 二〇〇一年七月一日 世界平和慰霊公園建設委員会委員 永田 勝美、坂木茂太郎、西土 純一 津留崎 恂、川副 正敏、塩川 正隆

レイテ島カンギポット山に建立された慰霊碑 前方の山がカンギポット山

レイテ島ピリヤバの日比合同慰霊祭で

昭和十九年十一月、比島ミンダナオ島オモナイにて、歩兵第七十七連隊

中天高く輝いていた。私は「この月を来年無事に見ることが出来るかなア」と部下言った。部下は夫々の思いを抱きながら、月を仰いでいた。決戦場へ向う兵の顔は皆、引き緊っていた。月は無心にこの顔を照らしていた。

十九年五月九日、出陣のため整列した三千有余名の部下の前で、新郷連隊長は訓示のあと「皆さん、これが最後の見納めだぞ、よくこの兵舎を見て置け」と言われた。兵舎は黒く物言わず、その屋根の向うに蒼光山の山端がくっきりと見えた

戦後、夫人と再会したのは山口県菊川町、願王寺で毎年行われる連隊の慰霊祭の日であった。レイテ唯一の生存者、永田勝美氏(併号呂邨)と戦地に於ける中隊長のことを詳しくお話しした。夫人は溢れる涙の中「紙きれ一枚の公報だけでは、とても主人の死を覚悟する

征くもなし 還るもならず 兵枯るる 呂邨

平成十三年十二月八日、愛子内親王が誕生された。雅子妃の出身地村上市民は殊のほか慶祝で賑わっていた。私は市民の顔の中に現役兵のニコニコと笑っている顔が重なって見えた。もしも生きて還っていたら、市民の十倍も二十倍も慶んだことだろう。涙がとめども

私には第二次世界大戦で父親と叔父を沖縄とフィリピン・レイテ島で亡くした。肉親の消息を知りたいと、戦友の方々を探し当て、一九七七年より沖縄で遺骨収集や慰霊巡拝を行なっている。当時の沖縄は、ひめゆりの塔や、海軍壕、黎明の塔などは観光地化し、訪れる人も多く、戦争は終わったかの状況であった。しかし、一歩山野や洞窟に足を踏み入れると遺骨や遺品、銃弾が散らばり、戦場さながらであり、驚きと憤りを感じた。これでは戦没者が浮かばれぬと思い、遺骨収集が始まった。もう二十五年が過ぎた。

十年前から叔父の戦死地であるフィリピン・レイテ島でも慰霊巡拝を始めた。レイテ島は戦友の方々により建立された慰霊碑は老朽化し、山野には多くの遺骨が眠る。訪れるたびに現地の人より、遺骨や遺留品を預かる。肉親や国のために若くして、犠牲になった戦没者のために、遺族の努めとして何とかご返返しをしなければと思う。

▼昨年、政府の遺骨収集団の団長、寺嶋氏の自宅を訪ねた。寺嶋氏が言われるには、遺骨収集に行き、最も熱心に行なうのは戦友で、その次が遺児だそう。その戦友の方々の殆どが八十歳を越える。これからは、私たちの遺児の仕事だ。そうしないと、戦争は風化し、肉親の死は無駄になり、平和な日本でなくなる。

一息吸う 生きていてよかった 一息吐く 生かされてよかった 南無

世界慰霊平和公園の碑 祈誓の碑

ここは、かつて日米両軍激戦の地にして、多くの兵の戦死の地なり。この悲劇の地に、米・比・日の戦没者の霊安かたを祈る。 新世紀に当りこの地に慰霊平和公園を建設し戦後兵士の霊を祈念する所以で在る。過去の悲劇を繰り返さぬ事を誓い、戦争の愚を断つ事を祈る。ここに、世界平和慰霊公園たることを祈誓する。 二〇〇一年七月一日 世界平和慰霊公園建設委員会委員 永田 勝美、坂木茂太郎、西土 純一 津留崎 恂、川副 正敏、塩川 正隆

レイテ島カンギポット山に建立された慰霊碑 前方の山がカンギポット山

レイテ島ピリヤバの日比合同慰霊祭で

昭和十九年十一月、比島ミンダナオ島オモナイにて、歩兵第七十七連隊

中天高く輝いていた。私は「この月を来年無事に見ることが出来るかなア」と部下言った。部下は夫々の思いを抱きながら、月を仰いでいた。決戦場へ向う兵の顔は皆、引き緊っていた。月は無心にこの顔を照らしていた。

十九年五月九日、出陣のため整列した三千有余名の部下の前で、新郷連隊長は訓示のあと「皆さん、これが最後の見納めだぞ、よくこの兵舎を見て置け」と言われた。兵舎は黒く物言わず、その屋根の向うに蒼光山の山端がくっきりと見えた

戦後、夫人と再会したのは山口県菊川町、願王寺で毎年行われる連隊の慰霊祭の日であった。レイテ唯一の生存者、永田勝美氏(併号呂邨)と戦地に於ける中隊長のことを詳しくお話しした。夫人は溢れる涙の中「紙きれ一枚の公報だけでは、とても主人の死を覚悟する

征くもなし 還るもならず 兵枯るる 呂邨

平成十三年十二月八日、愛子内親王が誕生された。雅子妃の出身地村上市民は殊のほか慶祝で賑わっていた。私は市民の顔の中に現役兵のニコニコと笑っている顔が重なって見えた。もしも生きて還っていたら、市民の十倍も二十倍も慶んだことだろう。涙がとめども

私には第二次世界大戦で父親と叔父を沖縄とフィリピン・レイテ島で亡くした。肉親の消息を知りたいと、戦友の方々を探し当て、一九七七年より沖縄で遺骨収集や慰霊巡拝を行なっている。当時の沖縄は、ひめゆりの塔や、海軍壕、黎明の塔などは観光地化し、訪れる人も多く、戦争は終わったかの状況であった。しかし、一歩山野や洞窟に足を踏み入れると遺骨や遺品、銃弾が散らばり、戦場さながらであり、驚きと憤りを感じた。これでは戦没者が浮かばれぬと思い、遺骨収集が始まった。もう二十五年が過ぎた。

十年前から叔父の戦死地であるフィリピン・レイテ島でも慰霊巡拝を始めた。レイテ島は戦友の方々により建立された慰霊碑は老朽化し、山野には多くの遺骨が眠る。訪れるたびに現地の人より、遺骨や遺留品を預かる。肉親や国のために若くして、犠牲になった戦没者のために、遺族の努めとして何とかご返返しをしなければと思う。

▼昨年、政府の遺骨収集団の団長、寺嶋氏の自宅を訪ねた。寺嶋氏が言われるには、遺骨収集に行き、最も熱心に行なうのは戦友で、その次が遺児だそう。その戦友の方々の殆どが八十歳を越える。これからは、私たちの遺児の仕事だ。そうしないと、戦争は風化し、肉親の死は無駄になり、平和な日本でなくなる。

一息吸う 生きていてよかった 一息吐く 生かされてよかった 南無

世界慰霊平和公園の碑 祈誓の碑

ここは、かつて日米両軍激戦の地にして、多くの兵の戦死の地なり。この悲劇の地に、米・比・日の戦没者の霊安かたを祈る。 新世紀に当りこの地に慰霊平和公園を建設し戦後兵士の霊を祈念する所以で在る。過去の悲劇を繰り返さぬ事を誓い、戦争の愚を断つ事を祈る。ここに、世界平和慰霊公園たることを祈誓する。 二〇〇一年七月一日 世界平和慰霊公園建設委員会委員 永田 勝美、坂木茂太郎、西土 純一 津留崎 恂、川副 正敏、塩川 正隆

レイテ島カンギポット山に建立された慰霊碑 前方の山がカンギポット山

レイテ島ピリヤバの日比合同慰霊祭で

昭和十九年十一月、比島ミンダナオ島オモナイにて、歩兵第七十七連隊

中天高く輝いていた。私は「この月を来年無事に見ることが出来るかなア」と部下言った。部下は夫々の思いを抱きながら、月を仰いでいた。決戦場へ向う兵の顔は皆、引き緊っていた。月は無心にこの顔を照らしていた。

十九年五月九日、出陣のため整列した三千有余名の部下の前で、新郷連隊長は訓示のあと「皆さん、これが最後の見納めだぞ、よくこの兵舎を見て置け」と言われた。兵舎は黒く物言わず、その屋根の向うに蒼光山の山端がくっきりと見えた

戦後、夫人と再会したのは山口県菊川町、願王寺で毎年行われる連隊の慰霊祭の日であった。レイテ唯一の生存者、永田勝美氏(併号呂邨)と戦地に於ける中隊長のことを詳しくお話しした。夫人は溢れる涙の中「紙きれ一枚の公報だけでは、とても主人の死を覚悟する

征くもなし 還るもならず 兵枯るる 呂邨

平成十三年十二月八日、愛子内親王が誕生された。雅子妃の出身地村上市民は殊のほか慶祝で賑わっていた。私は市民の顔の中に現役兵のニコニコと笑っている顔が重なって見えた。もしも生きて還っていたら、市民の十倍も二十倍も慶んだことだろう。涙がとめども

私には第二次世界大戦で父親と叔父を沖縄とフィリピン・レイテ島で亡くした。肉親の消息を知りたいと、戦友の方々を探し当て、一九七七年より沖縄で遺骨収集や慰霊巡拝を行なっている。当時の沖縄は、ひめゆりの塔や、海軍壕、黎明の塔などは観光地化し、訪れる人も多く、戦争は終わったかの状況であった。しかし、一歩山野や洞窟に足を踏み入れると遺骨や遺品、銃弾が散らばり、戦場さながらであり、驚きと憤りを感じた。これでは戦没者が浮かばれぬと思い、遺骨収集が始まった。もう二十五年が過ぎた。

十年前から叔父の戦死地であるフィリピン・レイテ島でも慰霊巡拝を始めた。レイテ島は戦友の方々により建立された慰霊碑は老朽化し、山野には多くの遺骨が眠る。訪れるたびに現地の人より、遺骨や遺留品を預かる。肉親や国のために若くして、犠牲になった戦没者のために、遺族の努めとして何とかご返返しをしなければと思う。

▼昨年、政府の遺骨収集団の団長、寺嶋氏の自宅を訪ねた。寺嶋氏が言われるには、遺骨収集に行き、最も熱心に行なうのは戦友で、その次が遺児だそう。その戦友の方々の殆どが八十歳を越える。これからは、私たちの遺児の仕事だ。そうしないと、戦争は風化し、肉親の死は無駄になり、平和な日本でなくなる。

一息吸う 生きていてよかった 一息吐く 生かされてよかった 南無

世界慰霊平和公園の碑 祈誓の碑

ここは、かつて日米両軍激戦の地にして、多くの兵の戦死の地なり。この悲劇の地に、米・比・日の戦没者の霊安かたを祈る。 新世紀に当りこの地に慰霊平和公園を建設し戦後兵士の霊を祈念する所以で在る。過去の悲劇を繰り返さぬ事を誓い、戦争の愚を断つ事を祈る。ここに、世界平和慰霊公園たることを祈誓する。 二〇〇一年七月一日 世界平和慰霊公園建設委員会委員 永田 勝美、坂木茂太郎、西土 純一 津留崎 恂、川副 正敏、塩川 正隆

レイテ島カンギポット山に建立された慰霊碑 前方の山がカンギポット山

レイテ島ピリヤバの日比合同慰霊祭で

昭和十九年十一月、比島ミンダナオ島オモナイにて、歩兵第七十七連隊

中天高く輝いていた。私は「この月を来年無事に見ることが出来るかなア」と部下言った。部下は夫々の思いを抱きながら、月を仰いでいた。決戦場へ向う兵の顔は皆、引き緊